

仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

幸せへの道



享樂に誘う時代

樂しさがあふれる時代になりました。テレビのスイッチを入れると、色鮮やかな背景に、ゲームやクイズ番組などに若い人たちの笑顔と笑い声があふれています。別のチャンネルでは笑顔のダンサーが歌い踊っています。みなさん若い時代を満喫して、とつても楽しそうです。

お釈迦さまの時代でも、楽しいことがたくさんあったのでしょうか。

悪魔がバラモンに姿を変えて、お釈迦さまと共に修行している人たちを誘いに來ます。

「あなた方は、お若くて、髪の黒い若者で、みごとに青春に富み、人生の春なのに愛欲を味わうこともなしに出家されました。あなた方は、人間の愛欲を楽しみなさい。現在経験

されることを捨てて、未來の時に得られることを追求なさるな。」と。

これに対して、修行僧たちは次のように言いました。

「バラモンよ。われらは、現在経験されることを捨てて、未來の時に得られることを追及しているではありません。われらは、未來に得られることを捨てて、現在に経験されることを追及しているのです。愛欲は、時間に属するものであり、苦しみ多く、悩み多く、禍いであり、ここでいよいよ烈しくなるものだ、と尊師はお説きになりました。」

（フツダ 「悪魔との対話」 四三、四四頁）

まことに、愛欲、快樂、享樂などは、人の煩惱の炎に火をつけて、苦しみ多く、悩み多く、禍いで、人を不幸に陥れるものであります。ところが、現代の風潮は、人生は自分のものだから自由に今を楽しめばいいのだと、享樂

や快樂に人を誘っているのです。さらに、急激な情報化社会の進展により、まだ判断がでない子どもまでスマホを持って、秘密の世界に入れるようになりました。そして、お金第一、金もうけが全ての世界は、これでもか、これでもかと、子どもの煩惱にまで享樂や快樂を呼びかけているのであります。怖ろしいことです。

心の柱

若い人に聞いてみました。皆さんは悪いことをしないように、享樂に走らないように、出会い系サイトなどの悪い誘いに騙されないように、心にブレーキをかけ、立派な人になろうと努力していますね。それは、そうしなければ、お父さん、お母さんに申し訳ないと思っからですか。

肯いてくれました。

お父さん、お母さんがいつも心の中にいて、慈しみ深く育てられたことが心に根付いていて、お父さん、お母さんがそばにいらなくても、誘惑を回避し、善行を積もうとする心の柱になっていたのでした。

ご先祖さまも同じですね。お亡くなりになって、この世にはいなくても、仏さまとなって心の中に蘇り、生きて、この世に生きる私たちをいつも見守ってくださいっているのです。ご先祖さまがみていてくださる。悪いことをしたらご先祖さまに申し訳ない、ご先祖さまのためにもしつかりしなければならぬ。そして、子孫の幸せのために自分もいい先祖になろうと願うことが心の柱になって、享樂を回避し善行を積み日々努力することに導くのです。

幸せへの道

幸せへの道をお示ししましょう。

一・三帰戒と朝のおまいり

三帰とは、仏法僧の三宝つまり、お釈迦さまとお釈迦さまのみ教えと、み教えを伝えられたお祖師さまを敬い信じることであります。

道元禅師さまは、三帰の功德これ最尊最上甚深不可思議なりと示されました。このことはお釈迦さまが証明されているのです。

私たちは信心の真心をもって、毎朝合掌し頭を垂れて『南無帰依佛 南無帰依法 南無帰依僧』とお唱えしましょう。

二・心を込めてご葬儀をいたしましょう。

ご葬儀によりお亡くなりになった方は仏さまになつて、心の中に蘇ります。そして生前に遺されたたくさんの善行とお徳と共に、

慈しみの心をもって皆さまを見守り、幸せを願っているのです。ご葬儀を、心を込めて執行し、自らも善い先祖となることをお誓いいたしましょう。

三・ご法事をして、人生の真理に目覚めご先祖

さまを心にお呼びしましょう。

ご法事は、人生の真理に目覚め、遺された皆さまが、しっかりと生きていることをご報告する場であります。ご法事をする親戚や関係者が一堂に会することができません。ご先祖さまは、おいでになつた皆さまの姿を見て、きつとお喜びになられるでしょう。ご先祖さまのご遺徳を偲び、私たちの今をご報告しましょう。立派に生きるお誓いをしましょう。

南無帰依佛 南無帰依法 南無帰依僧